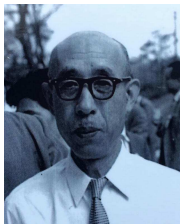


童謡「めいめい児山羊」の作詞家

藤森 秀夫(ふじもり ひでお)豊科 新田(しんでん出身)
 (秀夫が活躍した時代) 1894年(明治27年)～1962年(昭和37年) 享年68歳

明 27	治 7	大 8	正 9	10	12	12	昭 2	2	4	昭 22	和 33	35	37
田の医旧 町師豊 で長科 生男藤 まと森 れると るし る。と 池八 郎の	移家7 る。歳 。頃 。父 。実 科に	を大 卒文学 業部 する。独 。文 。科 。東 。松 。本 。中 。学 。校 。か 。ら	を詩 。出 。版 。集 。『 けも も』	聖三 。木 。露 。風 。ら 。と 。詩	版。 う。 。東 。京 。大 。震 。災 。に 。遭 。う。 。フ 。リ 。ヂ 。ヤ 。』 。出	詩集 。出 。版。 。若 。き 。日 。影 。』	詩集 。出 。版。 。紫 。水 。晶 。』	翻 。訳 。『 ゲ エ テ 詩 集 』	詩集 。『 稲 』 。出 。版。 。『 ハ イ ネ 詩 集 』	翻 。訳 。『 ハ イ ネ 詩 集 』	を詩 。出 。版。 。『 風 と 鳥 』	版。詩 。集 。『 櫻 』 。を 。出	去。胃 。潰 。瘍 。の 。た 。め 。死 。す。 。享 。年 。68 。歳



藤森秀夫
 (藤森美代子氏提供)

藤森秀夫の主な業績

①詩人・民謡、童謡の作詞者として

詩集に「こけもも」「フリヂヤ」「若い日影」「紫水晶」「稲」「風と鳥」「櫻」がある。
 山田耕柝、本居長世らにより作曲された童謡「めえめえ児山羊」「山のよめこ」「父さんどうと」などは全国で歌われ現在にいたる。

②ドイツ文学者・翻訳者として

ゲーテ・ハイネの研究。翻訳に「ゲエテ詩集」、「ハイネ詩集」がある。

③ドイツ語教師・教育者として

慶應義塾大学、五高〔現在の熊本大学〕、富山高〔現在の富山大学〕、四高〔現在の金沢大学〕、早稲田大学、明治大学で教鞭をとる。

「童謡祭り」～秀夫の詩情を精一杯歌い継ぐ～

昭和39年5月5日の「子供の日」に「藤森秀夫」童謡碑が旧豊科中学校の思索の森(現安曇野市 豊科学習交流センター「きぼう」前)に立てられました。それ以来、毎年この日には、「童謡祭り」が実施されています。

その「童謡祭り」では、秀夫が郷土に残したすぐれた詩情を絶やさない、作詞作曲コンクールの表彰と作品発表、そして、地元の保育園児や小学校の音楽クラブの児童たち、大人たちによる演奏会などが、平成30年の今もなお行われています。



【藤森秀夫童謡碑】

「先生の詩心を生み
 詩情を育てたこのふ
 るさと若い人々の
 美しい心と希望を育
 てたいとこの碑をた
 てました」と碑陰に
 記されています。

文人たちとの交流

自然詩、新しい民謡詩の先駆者として日本の中央詩壇に名をあげた秀夫は、多くの一流の文人たちと交流をもっていました。同人誌仲間の三木露風、堀口大学、日夏耿之介。野口雨情に対しては「私ぐらい彼と近く、彼と共にした者はいなかった」と述懐しています。他にも、夏目漱石、芥川龍之介、有島武郎、菊池寛、与謝野鉄幹、高村光太郎らとの交流もありました。漱石の秀夫宛ての書簡は漱石全集に収録されています。

関東大震災、空襲、戦後の混乱、出版社の破産を越えての詩作

関東大震災、戦争と空襲による犠牲は秀夫においても例外ではありませんでした。秀夫は「敗戦末期 焼夷弾 爆弾の洗礼を蒙った。その時の大戦災、あの時の大地震、よくも二つを越えてきたものだ」と詩集「風と鳥」の中で述懐しています。

詩集にするつもりで、せっかくためておいた作品が富山市の大空襲で全て焼けて灰になってしまいました。また、戦後は、家族を連れて郷里の豊科に引きあげてきたのですが、詩作どころではなく、夫人ともども慣れない田畑の作業を行い、汗と泥にまみれながら、敗戦後の混迷した一時期を過ごしました。あわせて、「玩具の日本橋」という童謡集は公表前に、出版社の破産で原稿は消失してしまいました。

【参考文献】

安曇野市HP「安曇野市ゆかりの先人たち」 「安曇野の文学碑散歩」 征矢野宏
 詩集「櫻」藤森秀夫 詩集「風と鳥」 藤森秀夫 「信州ふるさとの歌」長野県商工会婦人部連合会編
 「豊科町誌」近現代編 第5章ー4 「信濃路うたの旅路」花嶋堯春